

“もしも”のときの安心を、

「救急カード事業」

町内会における
救急カード事業の進め方と
活用事例



救急救命



見守り
支え合い促進

平成30年4月（改訂版）
社会福祉法人千歳市社会福祉協議会

このリーフレットは、赤い羽根共同募金の配分金により作成されました。



救急カード事業の進め方

① 救急カードを受け取りましょう

救急カードは、千歳市社会福祉協議会でお渡ししています。

枚数が多い場合は、準備にお時間をいただくことがありますので、必要な枚数を事前にお知らせくださいますようお願いいたします。

また、救急カードの不足や破損等による交換がありましたら、新しいカードをお渡しいたしますので、都度、ご連絡願います。

※救急カードの受け取りは町内会単位でお願いします。



写真:千歳市社会福祉協議会

② 救急カードを届けましょう

各戸に救急カードを届けます。

救急カードは、年齢や障がいの有無に関わらず、町内会未加入世帯も含めた全世帯に備えていただくカードです。

また、救急カードは一人1枚ご使用いただきますので、家族全員分のカードをお渡しいただきます。その際、記入の仕方や設置場所についても説明をしましょう。

救急カードの配付事例

・A町内会の事例

一度に全世帯への配付は負担が大きいため、救急カードの必要性の高い高齢者世帯や障がい者世帯から優先的に配付をし、段階的に全世帯への配付を進めています。



写真:町内会による配付の様子

・B町内会の事例

配付にあたってのスケジュール表や訪問して説明する際の原稿を作成し、町内会役員や福祉委員の間で共通認識を図りながら配付にあたりました。

また、訪問する際は名札や腕章を着用することで、町内会活動の周知や福祉委員の知名度向上にもつながりました。

・C町内会の事例

町内会未加入世帯には、チラシを作成し救急カードとともに郵便受けに投函するなどして周知を図りました。その後の訪問で、町内会の加入につながった世帯もありました。

・D町内会の事例

訪問して顔を合わせてお話しをすることで、高齢者世帯や障がい者世帯の状況把握にもつながりました。

また、この機会に改めて親しくお話しをすることができ、定期的な声かけ訪問活動にもつながっています。

③ 救急カードの設置確認や更新の呼びかけをしましょう

救急カードは、必要事項を記入し、所定の場所（玄関内か電話付近）へ設置することで緊急時に活用することができますが、救急カードの記載不足等により、救急時に活用できなかったケースが報告されています。

救急カードの管理は、基本的には自己責任ですが、設置や更新に対する声かけを行い“もしも”のときに備えましょう。

救急カードの設置確認や更新の呼びかけ事例

・ E町内会の事例

福祉委員や民生委員児童委員の訪問活動の際に、設置確認や記載内容に変更がないか声かけをしています。
声をかけるためのきっかけづくりとしても活用しています。

・ F町内会の事例

高齢者世帯や障がい者世帯に対しては、直接訪問して呼びかけていますが、他の世帯については、町内会の行事等で参加者へ呼びかけたり、町内会広報紙に掲載するなどして全体へも呼びかけています。

福祉部より 〈お願い〉

【救急カードについて】

* 病院は、変わって
いませんか？

* お薬は
同じですか？

今一度確かめて下さい。

分からない事等があれば、気軽に福祉民生委員に連絡相談して下さい
【救急カードはあなたを守ります】

平成 24 年 10 月 16 日 (火)

↑G町内会で住民へ配付しているチラシの例。

救急カードを設置しましょう

救急カードは、駆け付けた救急隊員が発見しやすいよう玄関内か電話付近へ設置をお願いします。

引出しにしまったり、見えづらい場所に設置すると緊急時に活用できない場合がありますので、所定の場所に設置されているか確認をします。

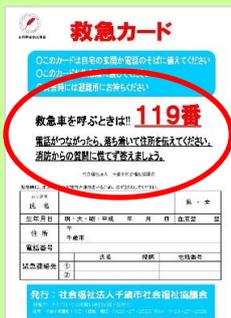


↑玄関内への設置



電話付近への設置→

救急カード活用ワンポイント



救急カードには119番通報する際のポイントを記載しています。救急通報時、落ち着いて連絡ができるように事前に確認して“もしも”のときに備えましょう。

○ある高齢者夫婦の事例

「夜中、妻が急に体調を崩し、いざ救急車を呼ぼうとしましたが、頭が真っ白になり119番が思い出せませんでした。そんなとき、設置していた救急カードのことを思い出し、カードを見ながら落ち着いて連絡することができました。」

※救急カード実施町内会からの報告

救急カード活用事例 (平成24年4月～平成30年3月まで)

68町内会 129件

※平成29年度は13件

で実際に活用されました



具体的な活用事例

①70代・女性

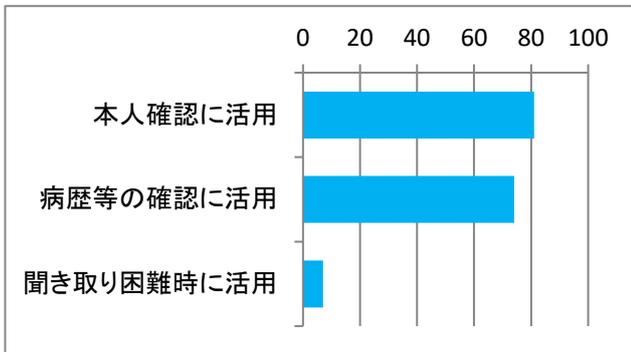
入浴後、吐き気を催すなど体調が悪化し119番通報があった。本人から聞き取りをするのに負担が大きかったが、提供された救急カードに必要事項が全て記載されていたため、持病等の聞き取り時間の短縮と本人の苦痛の軽減につながった。

②80代・男性

「30分前から震えがとまらない」と、訪問していた民生委員から119番通報があった。本人は高齢のため詳しい病歴を把握していなかったが、救急カードに必要事項が全て記載されていたため、病歴等の把握に要する時間が短縮され、速やかな搬送につながりました。

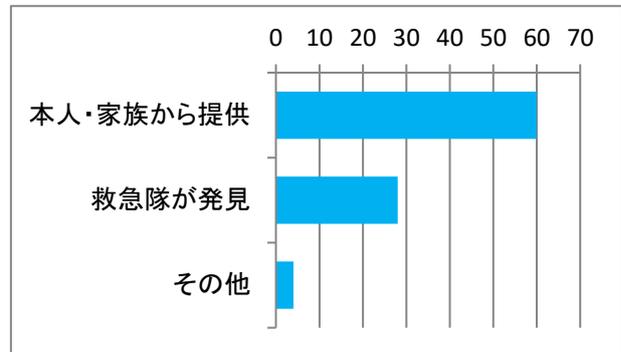
***どちらの事例も救急カードに必要事項が全て記載されていたため、病歴等の聞き取り時間と現場での滞在時間が短縮され、本人の苦痛軽減と速やかな救急搬送につながっています。**

救急カードの活用方法(H24年度～H30年3月:件数)



(千歳市消防本部からの報告)

救急カードの確認方法(H25年度～H30年3月:件数)



※その他は、家族以外で現場に居合わせた人からの提供

救急カード普及状況

現在、市内125町内会で配付が進んでおり、普及率は85.6%です。(平成30年4月1日現在)

救急カード事業への参加は、随時、受け付けておりますので、今後、配付を希望される町内会は下記担当係までご連絡ください。

また、事業への参加を検討されている町内会へは、担当者が説明に伺いますので、お気軽にご相談ください。

救急カード事業提唱団体

この事業は、地域福祉の推進を図る5団体が協力して普及に努めています。

千歳市町内会連合会

千歳市民生委員児童委員連絡協議会

千歳市老人クラブ連合会

千歳市共同募金委員会

千歳市社会福祉協議会

救急カードについてのお問い合わせは、

千歳市社会福祉協議会 地域福祉課地域福祉係まで

TEL 27-2525 / FAX 27-2528

